

第一章

序論

第1章 序論

1 - 1 本研究の背景

我が国では平成16年より、持続的に発展可能な社会「バイオマス・ニッポン」の実現に向け、バイオマス・ニッポン総合戦略推進会議（内閣府，総務省，文部科学省，農林水産省，経済産業省，国土交通省，環境省）では，地域のバイオマスの総合的かつ効率的な活用を図るバイオマスタウン構想を，全国の市町村から募集しており¹⁾，本事業には平成19年12月末までに，104市町村が参加している．

現在バイオマスタウン事業に参加している市町村は，国からの補助を受け，市町村ごとに策定した構想の実現に取り組んでいる（市町村がバイオマスタウン事業に参加すると，国から補助金がでるというメリットがある）．

なお公表している各市町村の人口や事業規模，バイオマスの種類，利用方法などは様々である．例えばある市では，その地域特有のホタテの貝殻を利用して凍結防止剤の原料として利用している．また，別の町では木質チップや間伐材といったバイオマスをペレットストーブの燃料として利用している．このように，各市町村によって発生するバイオマスの種類は多少異なってくるため，バイオマスの利用方法も多種多様なものとなっている．

しかし，バイオマスタウン構想書では，事業の計画，構想書が提出されるまでの市町村の状況について記載されているが，事業内容の詳細，事業の実施状況など不明な点が多い．

1 - 2 本研究の目的

そこで本研究では，現在公表されている構想書をまとめ，各市町村の事業内容を分析し，構想書に発表されているように事業が計画通りに進んでいるかどうか，及び公表されている構想書を読み，構想書に記載されている内容に対する疑問点をあげ，明らかにすることを目的とする．

1 - 3 本研究の意義

以上の目的を達成することで，事業計画の実現にかかる時間や，事業を実施する上での問題点が明らかになるため，新たにバイオマスタウン事業に参加する市町村にとって意義のある研究だといえる．

1 - 4 研究方法

本研究の目的を次のよう方法で達成する．

まず公表されている構想書から，市町村の人口，事業主体，発生しているバイオマスの量などの基本的なデータを表にまとめる．また，構想書を読み，事業の計画や内容，進行状況についての疑問点を挙げ，どうしても解決できないものに関してはアンケートを作成し，明らかにする．

1 - 5 参考文献・Web サイト

本論文中で使用した参考文献，Web サイトは以下の通りである．

1)農水省のバイオマス情報ヘッドクォーター

<http://www.biomass-hq.jp/biomasstown/index_map.html>，平成 16 年

以下の参考文献に関しては，本文中で引用はしていないが，基礎知識を得るために参考本研究に用いた．

2)用水と廃水，平成 18 年 vol.48 No.10 p878-883

3)畜産の研究 第 60 巻 第 8 号 (平成 18 年)p843-845

阿部亮 牛乳と豚とバイオマスタウン

4)月刊廃棄物 平成 17 年 May p2-31